

## 企業立地推進事業

アナ： 「市長が語る 2018 三島」第 23 回の今日は、「企業立地推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 現在、三島市では企業の誘致活動にとっても力を入れているようですが、そこにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： 三島市では、平成 28 年度に策定した「住むなら三島・総合戦略～まち・ひと・しごと創生～」のもと、若者の結婚から子育てまでの希望をかなえ、魅力的で品格あるまちづくり・ひとづくりを進め、幅広い世代の方々や企業から選ばれる都市の創生に取り組んでいます。三島市が今後も更に発展していくために最も安定的な財源を確保するには、雇用の拡大というのは大変重要であると考えています。このため、観光産業の振興、三島駅南口周辺の開発とともに、企業誘致は今、三島市が最も優先して取り組んでいる施策であり、平成 30 年度は、これらの施策を新たなステージに飛躍させるべく、総力をあげ一層の推進をしております。

アナ： なるほど、これからますます三島が発展していくために、企業誘致というのは大変重要な鍵のひとつになるということですね。

市長： そのとおりです。三島市内で若い世代が安心して働くことのできる雇用環境の整備を図り、生産年齢人口の増加に繋げていきたいと思っています。

アナ： 具体的にはどのような取り組みをされているのでしょうか。

市長： 平成 18 年度に専門部署となる企業立地推進課を立ち上げ、市外の企業に対して三島市への誘致活動を行うとともに、市内にある既存の企業には設備投資や人材の確保・育成等、さまざまな事業活動のサポートを行い、働く場を増やすように努めています。

特に現在は、間もなく完成を予定している三ツ谷地区の工業団地への企業誘致につきまして、総力をあげて重点的に推進しているところであります。

アナ： 工業団地の造成が進んでいるのですかね。規模はどのくらいになるのですか。

市長： 計画面積は約 21 ヘクタール、その中の約 11.4 ヘクタールの分譲面積のなかに、全 6 区画の分譲地を予定しています。これにより 1,000 人規模の新規雇用が生まれるものと期待しています。また、車で 5 分圏内には伊豆フルーツパークや三島スカイウォークがあり、近い将来、更に賑わいを増すエリアになることは間違いありません。

アナ： これからは箱根に向かう国道 1 号沿いに注目ですね。ところで、三ツ谷工業団地で操業するのは、どのような企業なのでしょうか。

市長： 三ツ谷工業団地で操業できるのは、製造業の工場、物流施設、研究所等となっ

ており、三島市では、工業団地周辺の環境に配慮した優良企業の誘致を進めています。また、工場見学ができる企業も誘致して、産業の拠点だけでなく観光の拠点としての役割も果たしてほしいと考え、交渉を進めています。

現在のところ、全6区画の分譲地に対し5区画への進出企業が決定しており、残る1区画につきましても、早期に進出企業が決まりますよう全力で誘致活動を行っております。

アナ： 「働く人」と「訪れた人」で賑わう工業団地とは素敵ですね。完成が楽しみになってきました。工業団地以外では、何か企業誘致の取り組みをされていますか。

市長： 工業団地とは別の場所におきましても、工場や研究所、物流施設の企業誘致を並行して進めておりますが、平成29年度からは、今後大きな成長が期待されるIT企業や、産業支援サービス等を行う企業の「サテライトオフィス」などの事業所の誘致を推進しています。三島市には新幹線三島駅があることから、優位な立地を活かした効果的な取り組みができるものと考え誘致を進めました結果、これまでに3社の企業に「サテライトオフィス」の事業所を開設していただき、その他に現在3社の企業との交渉を継続しております。

アナ： 1年余りで3社の進出が決まったのですね。このようなオフィスを誘致すると、どのようなメリットがあるのですか。

市長： オフィスですので、比較的小規模な事業所となることが多く、工場ほど多くの雇用者数は期待できませんが、多様な職種の企業に立地していただくことにより、多くの若者にとって、自分の就きたい仕事に三島市内で就職できるようになります。また、街中のにぎわい創出や、移住定住の施策においても効果があるものと考えております。

アナ： 一言で企業誘致と言っても、いろいろな形があることが分かりました。これから1社でも多くの企業の誘致を進めていただいて、ますます三島市を賑わいのある元気な街にしていきたいと思えます。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。